

これを繰り返し行うことにより、思ったことを自由に言ってもよい雰囲気ができます。しかし、今は「フリートーク」というもっとよい方法があるようです。

ブレインストーミングの約束

○量を重視する(質より量)

アイデア創出の段階では、質よりも量を重視する。一般的な考え方・アイデアはもちろん、一般的でなく新規性のある考え方・アイデアまで、あらゆる提案を歓迎する。

○批評・批判をしない(批判厳禁)

多くのアイデアが出揃うまでは、各個人のアイデアに対して、批評・批判することは慎む。個々のメリット・デメリットなどの評価は、ブレインストーミングの次の段階で行う。批評・批判については、各自メモをとるなどしておく。

○粗野な考えを歓迎する(自由奔放)

誰もが思いつきそうなアイデアよりも、奇抜な考え方や、ユニークで斬新なアイデアを重視する。新規性のある発明は、たいてい最初は笑いものにされる事が多く、そういった提案こそを重視すること。

2 2学期はじめの係活動～夏の学習会より

美祢市立伊佐小学校 津村元文

○ よく10月になると学級が乱れると言うことを聞きます。運動会等の大きな学校行事が終わると、『燃え尽き症候群』にもた子どもたちがみられるようになります。目の前の目標がなくなると、次に何をしたいかわからず、つい湧き出てくるエネルギーを発散する場所を求めて自由に動く、そして、友達と衝突するなど、様々な行動をとる子どもたちがふえ、結果的に「学級が乱れる」ということになります。

その乱れを解消し、学級が2学期にこそ大きく成長できるようにするためには、子どもたちに希望や目標を与え、クラスのいくべき方向を手助けするような活動が必要になります。

2学期の大きな学校行事の後にこそ、2学期の係活動を見直し、一工夫をこらし、子どもたち一人ひとりが学級の中に居場所を見つけ、自分が生き生きと活動できるようなものにしたいたいものです。そのための・・・を つ紹介します。

(1) 係活動の意義をもう一度考えてみる

○係活動は、自己決定をする場や機会を与え、役割意識を育てるために行うこと。

○学級集団が高まり、集団相互の作用を尊重していける学級づくりの基盤を作ること。

※当番活動と係活動の違いについて

「当番活動」・・・これがないと学級生活上困るようなことが起きる。(責任力)

「係活動」・・・これがあると学級生活が楽しくなる。(創造力等)

(2) 2学期学校行事終了後の係活動の作り方

○係を作る前に、係活動を作る視点を変える。

「2学期の係をみんなで作りましょう。1学期の係を参考に作りましょう。」という視点から「今このクラスの学級生活をよりよく向上していくためには、どのようなことをしていくとよいか。それをみんなで出しあって、分担して行いましょう。」という視点に変える必要がある。

○係活動とリンクしたグループエンカウンターで仲間とのつながりを見直す。

学校行事を取り組む過程で見られた友達のプラス面・マイナス面を楽しいエンカウンターで肯定的に受け止めるように仕組む。(特にマイナス面が見られた児童には、しっかりこの活動を通してよさを見つけてあげる意識が必要)仲間同士で協力しないとできないゲームや、協力できたからこそ味わえるような達成感を味わえるゲームが、係活動のノウハウと相互にリンクしている。大きな学校行事の終わった時期に行うことで、友達のよさを再度知り、様々な行事培った力をプラスの方向で高めあうことができる。

実施上の留意点として、あくまでも仲間づくりのため・学級づくりのために行うのであって様々なゲームを行うことだけに意識が向かないようにしなければならない。

(3) 係活動をさらに活性化するために必要な視点

行事の後は特に係を活性化するためにイベント活動に取り組みさせる。そのポイントは、次の3つ。

- いつどこで何をやるか、計画表や参加表を作る。それを広報する。
- 自分たちで計画を立て、先生と話し合いながらイベント活動を実行する。
- 自分たちの係だけで行うのではなく、他の係との連携できる部分を見つけ、協力して行うこと。

(4) 係活動の制限

エネルギーの発散で活動に歯止めがかからなくなるかもしれません。そこで、子どもたちの発想を大切にしながらも、次の内容は教師がきっぱりと制限することも大切な自治です。

- ・お金に関わること
- ・他のクラスの活動に影響すること(日課表から逸脱しない)
- ・安全性が保証できない場合
- ・人権に関わる内容
- ・活動内容が教育課程外に及ぶ場合

1学期と2学期は明らかに係活動の方向性が変わってきます。2学期からは、学級目標を意識した組織作りを係で実践していく必要があります。係活動がうまく機

能していると、学級の乱れを防いでくれる働きがあります。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第83号は、10月下旬ごろ発行予定です。

次号も、引き続き「元気が出る学級づくり」についてお知らせします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は243名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

=====
山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見は

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

西田智行（下関市立垢田小）

福永博一（萩市立椿西小）

=====